2027年６月期　第１四半期決算短信〔日本基準〕(非連結)

2026年11月９日

上 場 会 社 名	株式会社エーワン精密	上場取引所	東
コ ー ド 番 号	6156	URL	https://www.a-one-seimitsu.co.jp/
代　　表　　者	（役職名） 代表取締役社長	（氏名）	林　哲也
問合せ先責任者	（役職名） 取締役　管理部門統括	（氏名）	松本　亜紀子　　(TEL) 042-363-1039
配当支払開始予定日	―		

決算補足説明資料作成の有無　　：無
決算説明会開催の有無　　：無

（百万円未満切捨て）

１．2027年６月期第１四半期の業績（2026年７月１日～2026年９月30日）

（１）経営成績(累計)

（%表示は、対前年同四半期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2027年６月期第１四半期	477	24.5	104	179.9	115	156.9	78	159.4
2026年６月期第１四半期	383	△3.1	37	160.9	44	103.2	30	101.4

	１株当たり四半期純利益	潜在株式調整後１株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2027年６月期第１四半期	15.65	―
2026年６月期第１四半期	6.05	―

（２）財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2027年６月期第１四半期	7,854	7,026	89.5
2026年６月期	8,121	7,403	91.2

（参考）　自己資本　　2027年６月期第１四半期　　7,026百万円　　2026年６月期　　7,403百万円

２．配当の状況

	年間配当金				
	第１四半期末	第２四半期末	第３四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2026年６月期	―	0.00	―	100.00	100.00
2027年６月期	―				
2027年６月期(予想)		0.00	―	100.00	100.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無　：無

３．2027年６月期の業績予想（2026年７月１日～2027年６月30日）

（%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		１株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	1,914	13.8	340	44.3	362	25.9	253	26.4	50.32

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無　：無

※　注記事項

（１）四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用　　：無

（２）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

①　会計基準等の改正に伴う会計方針の変更　　：無

②　①以外の会計方針の変更　　：無

③　会計上の見積りの変更　　：無

④　修正再表示　　：無

（３）発行済株式数（普通株式）

①　期末発行済株式数（自己株式を含む）	2027年６月期１Ｑ	5,300,000株	2026年６月期	5,300,000株
②　期末自己株式数	2027年６月期１Ｑ	261,814株	2026年６月期	261,813株
③　期中平均株式数（四半期累計）	2027年６月期１Ｑ	5,038,187株	2026年６月期１Ｑ	5,020,228株

※　添付される四半期財務諸表に対する公認会計士又は監査法人によるレビュー　　：無

※　業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項：

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料３ページ「業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

１．当四半期決算に関する定性的情報 …… 2
（１）経営成績に関する説明 …… 2
（２）財政状態に関する説明 …… 3
（３）業績予想などの将来予測情報に関する説明 …… 3
２．四半期財務諸表及び主な注記 …… 4
（１）四半期貸借対照表 …… 4
（２）四半期損益計算書 …… 6
（３）四半期財務諸表に関する注記事項 …… 7
（継続企業の前提に関する注記） …… 7
（株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記） …… 7
（セグメント情報等） …… 7
（キャッシュ・フロー計算書に関する注記） …… 7
（収益認識関係） …… 8

１．当四半期決算に関する定性的情報

（１）経営成績に関する説明

当第１四半期累計期間におけるわが国経済は、緩やかな景気回復基調となりましたが先行き不透明感は増してきました。

世界を見渡すと政情不安や紛争が起きていて戦闘状態の国や地域があり、また関税問題があり資源の流通が滞り、材料不足や価格高騰が起きてインフレ傾向となってきています。世界の製造業の生産活動に影響が出てきている部分もありますが、一方で国家の安全保障の観点から半導体の確保や自前調達を進める動きがあり、AIに絡む分野やデータセンターを含む情報インフラの強化が進んでいます。

日本国内では、原油価格の上昇や円安傾向による輸入物価の上昇などによりインフレ傾向となり、日銀による政策金利の引き上げなど製造業にとっては、原材料価格上昇、電力費やエネルギーコスト上昇、人件費の上昇など事業環境にはマイナス面が出てきました。金利上昇は今後の企業の設備投資にはマイナスの影響が出てきます。

このような状況のなか当社の受注は７月は比較的好調でしたが８月は大手企業の夏季休暇に合わせて中小企業も生産が低下して、９月は再び受注は好調となりました。半導体増産のために製造装置、検査装置、工作機械などの生産設備、それに加えて関連する電子部品なども好調で製造業を下支えしました。医療機器も安定的に需要があり堅調に推移しました。自動車生産は原材料価格の上昇などがありやや生産が鈍化し、化学や繊維などコスト上昇の影響を受け業況はやや低下しました。

このような状況のなかコレットチャック部門では、７月は先月からの流れを受け比較的堅調に推移しましたが、８月は大手企業の夏季休暇に合わせて中小企業も休みの日が多く設備稼働日数が少なかったため受注は減少し、９月は半導体、電子部品、工作機械、設備産業、医療機器、精密機器などが動き受注は上向きました。また国内外からの半導体検査装置部品加工用のコレットチャックの受注は好調で当部門の売上も上がりました。

この結果、当セグメントの第１四半期累計期間の売上高は347,177千円（前年同期比31.8％増）、セグメント利益は165,483千円（前年同期比68.7％増）となりました。

切削工具部門では、７月から９月まで継続的に市中に仕事が出て、当社の顧客企業も一定の設備稼働率があり、市販切削工具の再研磨はリピート注文が入りました。ただ競合企業が多く受注は前年並みとなりました。売上高は81,009千円（前年同期比2.1％増）となりました。

別注切削工具の製作・再研磨は、国内製造業の量産部品や難易度の高い加工で使用されるオーダー切削工具の需要が伸び、当社への受注も増加しました。売上高は44,540千円（前年同期比20.2％増）となりました。

この結果、当セグメントの第１四半期累計期間の売上高は125,549千円（前年同期比7.9％増）、セグメント利益は38,539千円（前年同期比51.8％増）となりました。

自動旋盤用カム部門では、カム式自動旋盤で加工する量産部品が一定量あり、既存顧客からの受注が増加しました。

この結果、当セグメントの第１四半期累計期間の売上高は4,919千円（前年同期比33.5％増）、セグメント損失は58千円（前年同期は735千円の損失）となりました。

これらの結果、当第１四半期累計期間の売上高は477,645千円（前年同期比24.5％増）、営業利益は104,494千円（前年同期比179.9％増）、経常利益は115,065千円（前年同期比156.9％増）、四半期純利益は78,823千円（前年同期比159.4％増）となりました。

（２）財政状態に関する説明

（資産）

当第１四半期会計期間末における流動資産の残高は、4,429,251千円（前事業年度末は4,735,252千円）となり306,000千円の減少となりました。これは、原材料が130,681千円、その他が24,419千円、仕掛品が16,995千円増加しましたが、現金及び預金が456,814千円、売掛金が28,897千円減少したこと等によるものであります。

また、当第１四半期会計期間末における固定資産の残高は、3,425,120千円（前事業年度末は3,386,478千円）となり38,642千円の増加となりました。これは、繰延税金資産が41,464千円、長期前払費用が6,113千円、機械装置及び運搬具が5,504千円減少しましたが、投資有価証券が70,130千円、建設仮勘定が22,990千円、建物及び構築物が1,959千円増加したこと等によるものであります。

この結果、当第１四半期会計期間末における総資産は、7,854,372千円（前事業年度末は8,121,730千円）となりました。

（負債）

当第１四半期会計期間末における流動負債の残高は、342,881千円（前事業年度末は237,010千円）となり105,870千円の増加となりました。これは、未払法人税等が26,440千円、役員賞与引当金が2,290千円、その他が1,041千円減少しましたが、買掛金が124,291千円、未払金が11,350千円増加したことによるものであります。

また、当第１四半期会計期間末における固定負債の残高は、484,591千円（前事業年度末は481,213千円）となり3,377千円の増加となりました。これは、退職給付引当金が3,099千円、長期未払金が469千円増加したことによるものであります。

この結果、当第１四半期会計期間末における負債合計は、827,473千円（前事業年度末は718,224千円）となりました。

（純資産）

当第１四半期会計期間末における純資産の残高は、7,026,898千円（前事業年度末は7,403,505千円）となり376,607千円の減少となりました。これは、その他有価証券評価差額金が48,390千円増加しましたが、利益剰余金が424,995千円減少したこと等によるものであります。

（３）業績予想などの将来予測情報に関する説明

通期の見通しにつきましては、2026年８月10日発表の業績予想どおりとなる見込みであります。

２．四半期財務諸表及び主な注記

（１）四半期貸借対照表

（単位：千円）

	前事業年度 (2026年６月30日)	当第１四半期会計期間 (2026年９月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	4,104,345	3,647,530
売掛金	257,497	228,599
電子記録債権	36,462	43,333
製品	119	60
原材料	54,817	185,499
仕掛品	254,530	271,525
前払費用	9,181	9,866
その他	19,150	43,569
貸倒引当金	△852	△734
流動資産合計	4,735,252	4,429,251
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	209,012	210,971
機械装置及び運搬具（純額）	264,826	259,321
建設仮勘定	25,550	48,540
土地	333,534	333,534
その他（純額）	5,700	5,349
有形固定資産合計	838,624	857,718
無形固定資産	41,409	38,404
投資その他の資産		
投資有価証券	2,333,053	2,403,183
長期前払費用	7,478	1,364
繰延税金資産	165,877	124,412
その他	517	517
貸倒引当金	△481	△481
投資その他の資産合計	2,506,444	2,528,997
固定資産合計	3,386,478	3,425,120
資産合計	8,121,730	7,854,372
負債の部		
流動負債		
買掛金	23,492	147,784
未払金	130,336	141,687
未払法人税等	46,205	19,765
役員賞与引当金	5,000	2,710
その他	31,975	30,934
流動負債合計	237,010	342,881
固定負債		
長期未払金	91,122	91,591
退職給付引当金	389,900	393,000
その他	190	―
固定負債合計	481,213	484,591
負債合計	718,224	827,473

（単位：千円）

	前事業年度 (2026年６月30日)	当第１四半期会計期間 (2026年９月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	292,500	292,500
資本剰余金	385,099	385,099
利益剰余金	6,510,803	6,085,808
自己株式	△176,992	△176,994
株主資本合計	7,011,410	6,586,412
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	392,095	440,485
評価・換算差額等合計	392,095	440,485
純資産合計	7,403,505	7,026,898
負債純資産合計	8,121,730	7,854,372

（２）四半期損益計算書

第１四半期累計期間

（単位：千円）

	前第１四半期累計期間 （自 2025年７月１日 至 2025年９月30日）	当第１四半期累計期間 （自 2026年７月１日 至 2026年９月30日）
売上高	383,504	477,645
売上原価	260,746	273,682
売上総利益	122,757	203,963
販売費及び一般管理費	85,428	99,468
営業利益	37,328	104,494
営業外収益		
受取利息	3,206	2,942
有価証券利息	3,624	6,200
貸倒引当金戻入額	―	118
売電収入	241	223
作業くず売却益	79	1,032
その他	305	53
営業外収益合計	7,457	10,570
経常利益	44,786	115,065
税引前四半期純利益	44,786	115,065
法人税、住民税及び事業税	8,165	16,518
法人税等調整額	6,229	19,724
法人税等合計	14,394	36,242
四半期純利益	30,392	78,823

（３）四半期財務諸表に関する注記事項

（継続企業の前提に関する注記）

該当事項はありません。

（株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記）

該当事項はありません。

（セグメント情報等）

Ⅰ　前第１四半期累計期間(自　2025年７月１日　至　2025年９月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント				調整額(注)1	四半期損益計算書計上額(注)2
	コレットチャック部門	切削工具部門	自動旋盤用カム部門	計		
売上高						
外部顧客への売上高	263,441	116,376	3,685	383,504	―	383,504
セグメント間の内部売上高又は振替高	―	―	―	―	―	―
計	263,441	116,376	3,685	383,504	―	383,504
セグメント利益又は損失(△)	98,111	25,381	△735	122,757	△85,428	37,328

(注)１　セグメント利益又は損失（△）の調整額は、報告セグメントに帰属しない販売費及び一般管理費であります。

２　セグメント利益又は損失（△）は、四半期損益計算書の営業利益と調整を行っております。

Ⅱ　当第１四半期累計期間(自　2026年７月１日　至　2026年９月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント				調整額(注)1	四半期損益計算書計上額(注)2
	コレットチャック部門	切削工具部門	自動旋盤用カム部門	計		
売上高						
外部顧客への売上高	347,177	125,549	4,919	477,645	―	477,645
セグメント間の内部売上高又は振替高	―	―	―	―	―	―
計	347,177	125,549	4,919	477,645	―	477,645
セグメント利益又は損失(△)	165,483	38,539	△58	203,963	△99,468	104,494

(注)１　セグメント利益又は損失（△）の調整額は、報告セグメントに帰属しない販売費及び一般管理費であります。

２　セグメント利益又は損失（△）は、四半期損益計算書の営業利益と調整を行っております。

（キャッシュ・フロー計算書に関する注記）

当第１四半期累計期間に係る四半期キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第１四半期累計期間に係る減価償却費（無形固定資産に係る償却費を含む。）は、次のとおりであります。

	前第１四半期累計期間 (自　2025年７月１日 至　2025年９月30日)	当第１四半期累計期間 (自　2026年７月１日 至　2026年９月30日)
減価償却費	24,849千円	23,515千円

（収益認識関係）

顧客との契約から生じる収益を分解した情報

前第１四半期累計期間（自　2025年７月１日　　至　2025年９月30日）

（単位：千円）

	報告セグメント					合計
	コレットチャック部門	切削工具部門			自動旋盤用カム部門	
		別注切削工具の製作・再研磨	市販切削工具の再研磨	小計		
工具製作	263,441	37,041	―	37,041	3,685	304,169
その他	―	―	79,334	79,334	―	79,334
顧客との契約から生じる収益	263,441	37,041	79,334	116,376	3,685	383,504
その他の収益	―	―	―	―	―	―
外部顧客への売上高	263,441	37,041	79,334	116,376	3,685	383,504

当第１四半期累計期間（自　2026年７月１日　　至　2026年９月30日）

（単位：千円）

	報告セグメント					合計
	コレットチャック部門	切削工具部門			自動旋盤用カム部門	
		別注切削工具の製作・再研磨	市販切削工具の再研磨	小計		
工具製作	347,177	44,540	―	44,540	4,919	396,636
その他	―	―	81,009	81,009	―	81,009
顧客との契約から生じる収益	347,177	44,540	81,009	125,549	4,919	477,645
その他の収益	―	―	―	―	―	―
外部顧客への売上高	347,177	44,540	81,009	125,549	4,919	477,645